Q11　運動が苦手だったり，方向感覚の育っていなかったりする子どもにはどのように対応したらよいでしょうか

子どもの状態

○　姿勢が悪く，ぎくしゃくした動きが多い。
○　鉄棒や縄跳びなど運動が苦手である。
○　衣類の前後や靴の左右を間違えることが多い。←
○　特別教室の場所をなかなか覚えられず，移動に時間が掛かる。
○　周りの物に身体をぶつけることが多い。

状態の理解のポイント

・　姿勢保持に必要な背筋等の筋力が弱い。
・　身体各部位の動きを感じ取る感覚器官の働き（ボディイメージ）が弱い。
・　視覚と運動の協応が弱い。
・　個々の動作の組み合わせが難しい。
・　運動への苦手意識がある。
・　上下左右などの認知が困難である。
・　方向感覚に関する発達が遅れている。

考えられる対応

○　トランポリンなど様々な遊具を使って，腹筋や背筋や手足の筋力を付けるようにする。ランニングや腕立て伏せなどを数値的な目標をもたせて日課に位置付ける。(図105)
○　自分の体の動きを感じ取ることができるようにする。
　・　マットやブランコや滑り台等で，回転や揺れや上下の感覚等を感じるようにする。
　・　鏡で確認しながら，動きやポーズの模倣等をするようにする。
○　ボール等の速い動きを追えない子どもには，風船などを使ってゲームをし，視覚と運動の協応を促す。
○　トンネルや平均台，マット等を使って，サーキットをするなどして，体全体の動きの組み合わせをスムーズにする。
○　前後や左右の手掛かりになるマークを付けるなどして，慣れたら徐々にマークを外していく。
　・　利き手に目印（輪ゴム，マニキュアなど）を付ける。
　・　服の前後や靴の左右に印を付ける。
○　特別教室の移動の際は，友だちと一緒に移動する，教室のマークを手掛かりにする，校内マップを活用するなど段階的に工夫する。（図106）
◇　家庭でも丁寧な状況説明と細かな段階を踏まえながら，様々な体験ができるように働き掛ける。

図105　いろいろな運動

図106　教室のマーク